

心不全患者 メタボ率2倍

慢性心不全患者の中でメタボリック・シンドローム（メタボ）と診断される人の割合は男女ともに、一般人口に比べ2倍の高率であることが、厚生労働省研究班（班長＝下川宏明・東北大学教授）による初めての全国規模調査で分かった。メタボが心不全を招くリスクを高めることが、改めて裏付けられた。

東北大など初の全国調査

下川教授によると、調査は2006～08年度に、北海道、宮城、東京、大阪、山口、福岡の6医療機関が協力して、心筋梗塞や心筋症、弁膜症などで心機能が大きく低下した慢性心不全患者3440人（平均年齢69歳）のデータを解析した。

その結果、メタボと診断された割合は男性47%、女性20%（全体38%）に達し、平均40～50歳の健康な人を対象とした過去の調査の男性20%前後、女性10%前後より高かった。

メタボの合併者では、心筋梗塞が心不全の原因となった割合が56%と飛び抜けていた。国内の慢性心不全患者は約250万人と推定され、今後増加が予想される。下川教授は「メタボの診断基準に当てはまる人は、腹囲または体重をまず5%減らすことを目標に、健康管理に努めてほしい」と指摘している。

2009年2月5日(木)

読売新聞朝刊